



逆瀬川 あゆみだより

NO.203 2024.5
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

草木や花が色とりどりに咲き誇る5月。私達の心も和ませてくれているようですね。

先日、3歳児クラスのお子さんが登園して来た時のことです。4月に歌っていたこども賛美歌（つくしのように）を歌いながら自動ドアを入ってきました。お母さんも一緒に口ずさんでくれていて、なんとも微笑ましく愛らしい姿に、心がほっこりとした瞬間でした。

毎日を過ごす中で、『子どもも保護者も保育者も居心地の良さを感じながら、安心して私らしくいられる』まなざしを向けあえる関係、目と目で確認できる関係、声にして話せる関係、こんな関係の積み重なりが園生活に溶け込んで、ひとりひとりのよりどころとなっていったらどんなに素敵でしょう。

子どもは、生まれる時、それまで一体だった母親から、個として生きていくことになります。それで子ども達はまずこの世界で、私は他にはいない「わたし」なんだよね？と問い、自己の固有の存在を感じ、助かめようとします。だから「抱っこ！抱っこ！」私だけを抱っこして！と。このように、「わたしは誰？」という問いは、私が他者から受け入れられ、承認されることでしか満たされることはありません。でも、私達人間は、完璧ではありませんから、いつでもその子どもを受容することなどできませんが、一人ひとりのありのままを受け入れることを大切に過ごしていきたいですね。

先日の懇談会は、ご参加ありがとうございました。

各クラス担任のカラーもあり、保護者の皆さんの趣味やリフレッシュ方法、アイスブレーキングなども含め、短い時間でしたが有意義な時となったように思います。懇談会で話題になったクラスもあったようですが、先日、朝のTV番組の中でも関連するものがあったので、少し触れさせていただきます。

「ネットに奪われる子どもたち」～スマホ社会とメディア依存への対応～という著書より

世代を超えて世界中の赤ちゃんが好きな遊び「いないいないばあ」があります。ところが、最近はスマホ相手に無表情にこの「いないいないばあ」のアプリにタッチしている子どもを見かけます。8か月から1歳前後の子どもが繰り返す遊びですが、これは脳の発達と関係しています。この頃から「目の前に見えないけれど一貫してある」という周囲の一貫性を記憶保持できるようになるのです。

そして、「いつもある、なじみのあるもの」に安心感を「なじみのないもの」に警戒心を持つという人見知りと関係して、生涯の基礎となる愛着を形成してゆくのですね。また、「鬼電」のようなものは、怖だけでなく、フラッシュバックを起こすトラウマとなりやすいのです。見せた瞬間に言う事を聞くからと言って日常的に使用していたらどうなっていくのでしょうか。アメリカでは、14歳以下の子どものSNS利用を制限する州があることも番組で知りました。人間は、経験を積み重ねて成長していきますね。切り離して生活していくことが難しいからこそ、大人が使用方法や時間を考えていく必要があるのかもしれないですね。

辻田 紀子




イースター

8日(月)新しいクラスになって、うさぎぐみ・ひつじぐみは、イースターの卵探しを楽しみました。

ひつじ組は、イエスさまが復活されたことを喜び日というお話を聞いて卵探しを始めました。

卵探しでは、見つけた卵をみて「かわいい！」ととても嬉しそうなお表情を見せてくれたり、なかなか見つからないお友達には「がんばれ〜！」と応援する優しい姿もありました。きっと神様も見守ってくださったことでしょう。

神様が復活された嬉しさと重なってくれたらと思っています。

 入園したお友だち

2名のおともだち

一緒に楽しく過ごしましょうね。

4月20日(土)懇談会に、たくさんのご参加ありがとうございました。

ひよこぐみ・りすぐみは 9:00~10:00 うさぎぐみ・ひつじぐみは 10:00~11:00 と2部制で行いました。懇談会は、園からのお知らせ等をお伝えする場でもありますが、保護者の方同士や保育者と繋がり、思いを共有したり、交流したりする機会になればという思いをもって行いました。保護者の方々のお話が盛り上がっている様子やアイスブレイキングのゲームで盛り上がっている姿がありました。担任からの「こんな1年にしたい！」という思いも届きましたでしょうか？今年度も保護者の方々と一緒に、子どもたちが生き生きと生活できる場所を作っていきたいと思っています。今年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。



お誕生日おめでとう



5名のおともだち

すくすくと おおきくなあれ！

主は羊飼ひ

「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。」(詩編23:1)

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋

羊という動物は、よく臆病で弱いと言われます。ちょっとした物音にも驚いて、走り出します。ほかの羊たちもつられて、わけもわからずに走り出します。羊は群れを成してでなければ安心して生きていけません。もし群れから迷い出すと、自力では戻って来られません。まるで私たちのようですね。このような羊に必要なものは、良い羊飼ひです。羊飼ひは、羊たちの性格や癖までよく知っていて、それぞれに合うケアをします。危険が迫れば、身体を張って羊たちを守ります。

イエス・キリストは、羊のように弱い私たちの羊飼ひとなってくださいました。主イエス様は、私たち一人一人をよく知ってください、私たちに必要な霊の糧であるみことばを与えて養ってくださいます。何よりも、主は十字架にかかって、私たちを罪と滅びから救い出してくださいました。この羊飼ひである主に信賴して従って行くなれば、何も恐れることなく、平安でいることができるのです。

